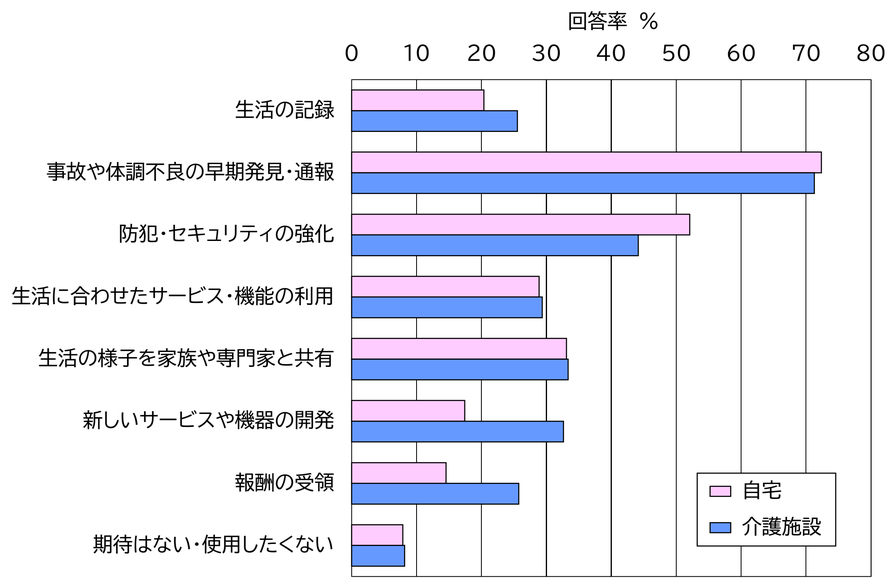
介護サービスにおける見守りサービスの受容性

- ▶ 見守りサービスは，公共性が高い場所の方が受容性が高い
- ▶ 受容性には性別，介護の経験，年齢，世帯収入，最終学歴が影響
- ▶ テクノロジーの活用に向けた課題を整理

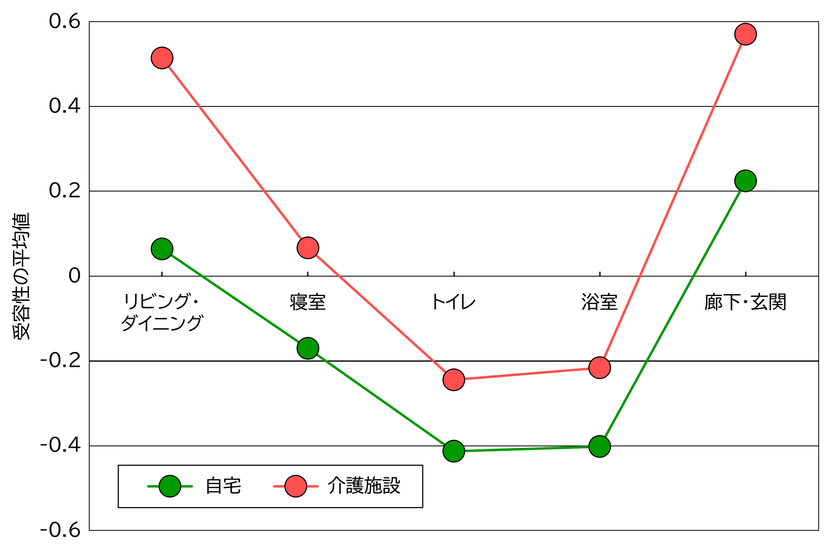
介護サービスにおける社会課題

- 高齢化率：29.1%（2023 年）
- 介護サービスの需要は高いが，労働者人口の減少から人手不足が深刻化
- ロボットや AI など介護支援テクノロジーの活用が期待されているが，導入率は 10% 以下で導入と活用は進んでいない
- 導入阻害要因と考えられるコスト，プロセスとの整合性，受容性のうち，本研究では見守りサービスの受容性に焦点を絞り，35 歳以上の男女各 1,000 名を対象としたアンケート調査を実施し，受容性を分析



見守りサービスへの期待

見守りサービスの受容性に関する調査

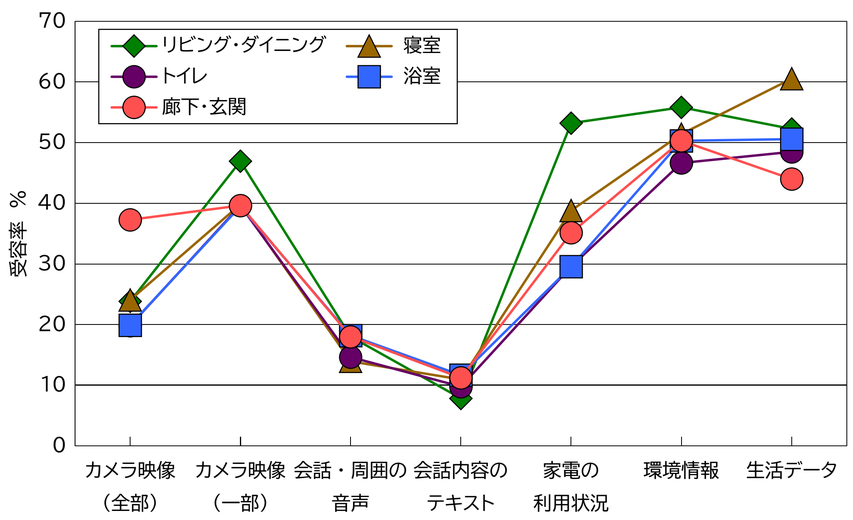


自宅・介護施設における見守りサービスの受容性

- 「事故や体調不良の早期発見・通報」「防犯・セキュリティの強化」に対する期待が高いが，回答者の約 8% は見守りサービスに否定的
- 「リビング・ダイニング」「廊下・玄関」では 50% 以上の回答者が，カメラやセンサの設置に肯定的．「トイレ」「浴室」などプライバシー空間ほど受容性は低下．介護施設は自宅よりも公共性が高い場所と認識
- 見守りサービスに使用するセンサ・情報として，共用空間でのカメラに対する受容性は高まっている．環境系のセンサ・情報に対する受容性は高いが，音声系のセンサ・情報に対する受容性は低い
- 受容性と個人特性の関係の重回帰分析より，性別（男性＞女性），介護の経験（あり＞なし），年齢（高い＞低い，自宅），世帯収入（高い＞低い，自宅），最終学歴（高い＞低い，施設）が有意に影響

テクノロジーの普及に向けた課題

- 社会制度：個人情報の安全・高信頼な管理と容易な活用が両立できる制度
- 事業者：サービスに利用する情報について，収集する場所，時間，方法の提示と，提供される価値の提示．ユーザーが同意のもとに情報やサービス内容を選択できるサービスの設計
- 開発者：提供される情報に対するサービスの機能や信頼性の評価の開示
- ユーザー：効果的な体験・経験によるテクノロジーへの受容性の向上



見守りサービスにおけるセンサ・情報の受容性

人に寄り添い、人を高める
Cuddle People, Augment People
三輪　洋靖
情報・人間工学領域 人間拡張研究センター サービス価値拡張研究チーム
連絡先：harc-liaison-ml@aist.go.jp
産総研
ともに挑む。つぎを創る。